第1部

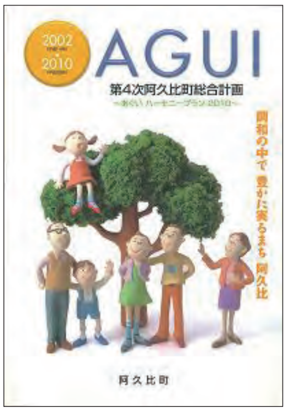
序論

第１章　計画策定にあたって
第２章　まちのすがた
第３章　これからのまちづくりに向けて

第１章　計画策定にあたって

第１節　計画策定の目的

第４次阿久比町総合計画



　本町は、平成14年度を初年度とする第４次阿久比町総合計画において、「調和の中で豊かに実るまち阿久比」をまちの将来像に掲げ、各種施策を住民とともに積極的に推進してきました。

　しかし今日の、少子高齢化の進行、産業を取り巻く環境の急速な変化、安全･安心への意識の高まり、情報化･国際化の進展、環境保全意識の高まりなど、本町を取り巻く社会･経済情勢は大きく変化し、本町のあらゆる分野に大きな影響をもたらしています。

　また、地方分権から地域主権[※1]への進展、国の財政状況悪化に伴い町の行財政もその運営に一層の厳しさが加わるなど、大きな転換期を迎えており、引き続き行財政改革を進め、自立できる自治体づくりに向けた積極的な取り組みが求められています。

　こうした内外の動向に的確に対応するとともに、次の世代に誇りを持ってつないでいく本町を住民と行政が協働して築いていくため、今後のまちづくりの方向性とその実現のための基本目標を示す新たな指針として、ここに「第５次阿久比町総合計画」を策定します。

町を取り巻く状況が大きく変化しています

時代の潮流

- ●地方分権から地域主権への進展
- ●協働のまちづくりの時代の到来
- ●環境保全意識の高まり
- ●安全･安心意識の高まり
- ●少子高齢化の進行
- ●情報化･国際化の進展
- ●産業を取り巻く環境の急速な変化

まちづくりに生かすべき特性

住民ニーズの変化

対応すべき課題

→ 新しいまちづくりの方向性

[※1] 地域主権：地域のことは地域が自ら考え決定し、その財源･権限と責任も自らが持つこと。

第２節 総合計画の役割

総合計画とは何か！

総合計画は、まちづくりの総合的な計画として最も上位に位置づけられるもので、総合的かつ計画的な行政運営を進めていく上での基本的な指針となるものです。※2

総合計画の役割とは！

総合計画は、地方自治法に基づく町の最上位計画としての位置づけを踏まえて、以下の役割を持ちます。

総合計画は大きく3つの役割があります

役割1 住民みんなのまちづくりの共通目標

総合計画は、住民に対して今後の本町のまちづくりの方向性と必要な施策をわかりやすく示し、住民一人ひとりがまちづくりに主体的に参画・協働するための共通目標となるものです。

役割2 阿久比町の行政経営を進めるための指針

総合計画は、地方分権から地域主権に進展する中、行政経営の確立に向けて、様々な施策や事業を総合的かつ計画的に推進するための指針となるものです。

役割3 広域行政に対する連携の基礎

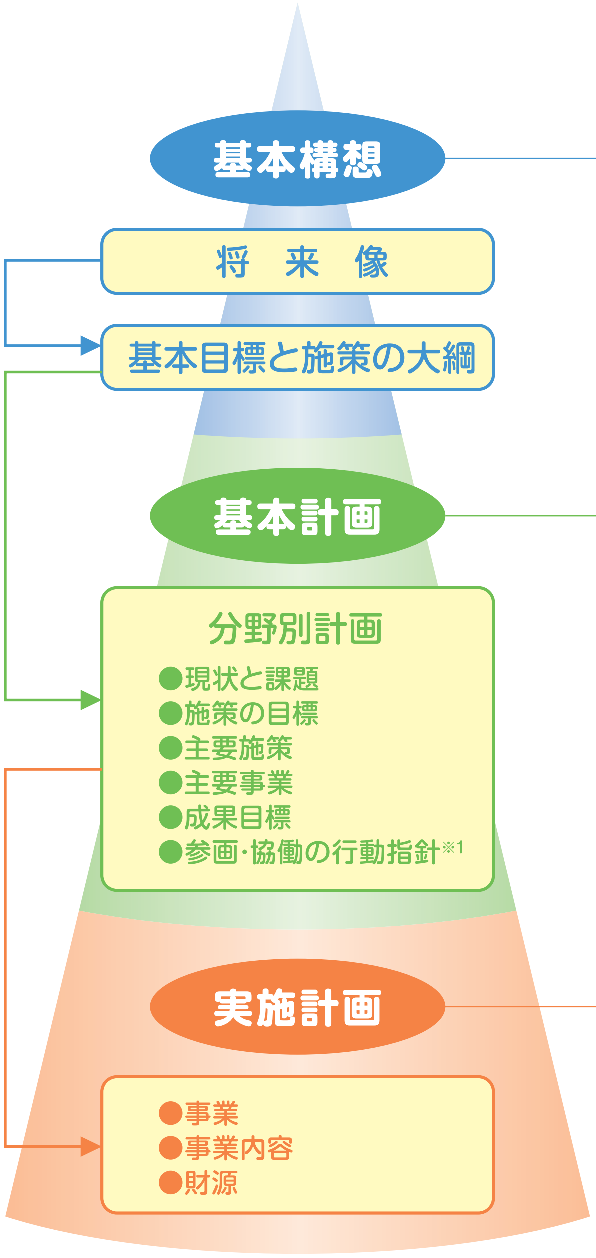
総合計画は、国や県、周辺自治体等の広域的な行政に対して、本町のまちづくりの方向を示すとともに、計画実現に向けて必要な施策や事業を調整・反映させていく連携の基礎となるものです。

※2 地方自治法（第２条第４項）において、「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」と定められています。

第３節　第５次阿久比町総合計画の構成と計画期間

第５次阿久比町総合計画の構成！

総合計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の３つで構成されます。



基本構想

基本構想は、まちの特性や住民ニーズの動向、時代潮流等を総合的に勘案し、まちが目指す将来像と、それを実現するための基本目標及び施策の大綱等を示すものです。

基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、今後取り組むべき主要施策などを行政の各分野にわたって体系的に定めるものです。

実施計画

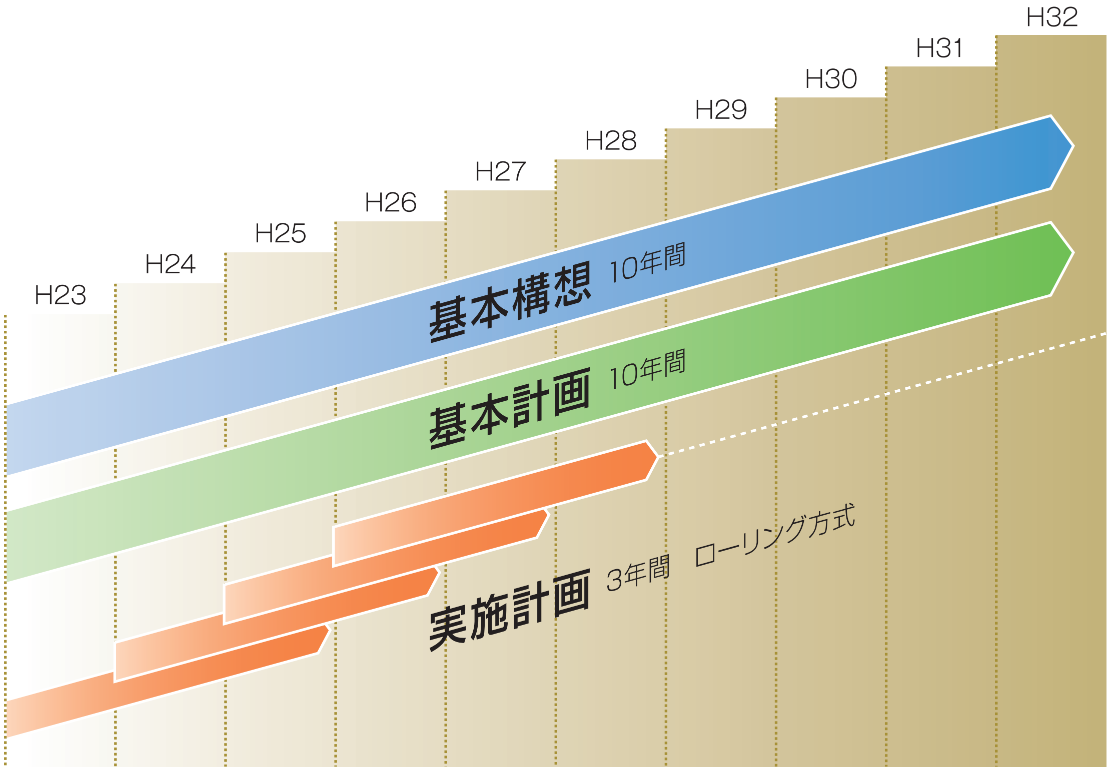
実施計画は、基本計画に示した主要施策に基づき、具体的に実施する事業を定めるものであり、事業の優先順位や具体的な事業内容、財源等を示すことにより、予算編成の指針となるものです。

※1 参画･協働の行動指針：総合計画が住民みんなのまちづくりの共通目標となるよう、住民の役割を示したもので、町民まちづくり会議から提案されたものです。

第５次阿久比町総合計画の計画期間は！

第５次阿久比町総合計画の基本構想及び基本計画の計画期間は、平成23年度から平成32年度までの10年間とします。

実施計画の計画期間は、３年間として別途策定し、ローリング方式（毎年度見直す方式）により調整します。



計 画 期 間

第２章　まちのすがた

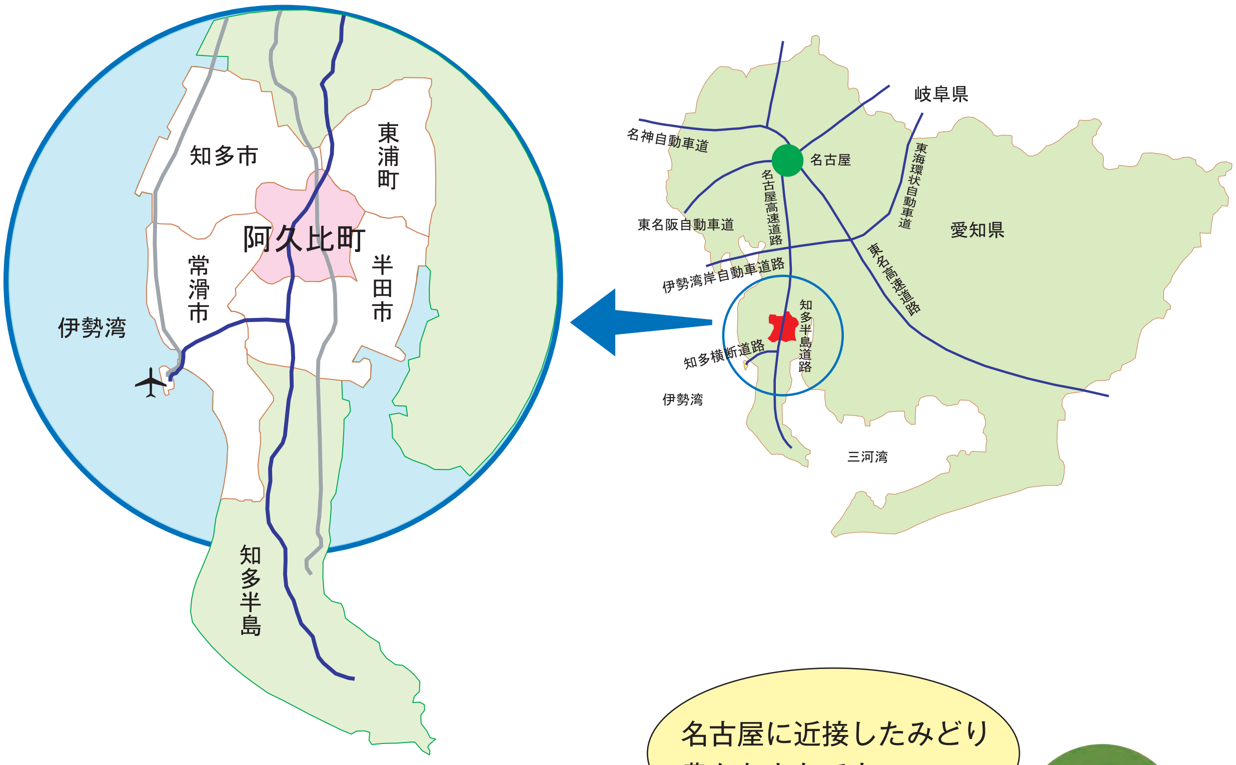
第１節　まちの現況

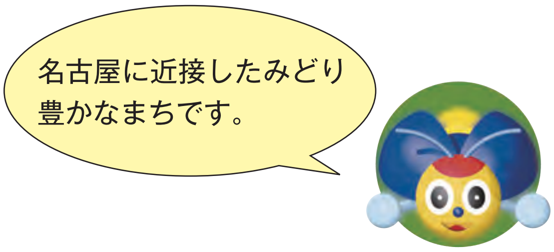
1　まちの概要

本町は、知多半島のほぼ中央に位置し、半田市、常滑市、知多市、東浦町と接しています。名古屋市中心部までおよそ25kmの距離にあり、鉄道・道路のいずれを利用しても約30分でアクセスできる交通利便性を有しています。

面積・地勢をみると、東西、南北ともに約６km、23.94km^{2}の面積を有し、町のほぼ中央を南北に流れる阿久比川、それに注ぐ草木川、福山川、前田川、矢勝川などの河川に沿って比較的平坦な地形が分布し、その周囲に小高い丘陵地帯が連なり、住宅地と豊かな農地やみどりが囲む良好な景観を保っています。

気候をみると平成21年では年間平均気温は16.5度と比較的温暖な気候であり、年間降水量は1,692mmと比較的少なくなっています。[※1]





※1 本町には観測所がないため知多中部広域事務組合消防本部での値。

2 まちの歴史

本町は、「阿具比」として藤原京跡から出土した木簡にその名前が登場し、1,300年以上の歴史を有しています。古くから、阿久比川流域の肥沃な農地を中心に長く純農村として発展してきましたが、江戸時代からは綿布づくりが盛んになり、「知多木綿」の中心的産地として栄えました。その後、動力化の進展や、昭和６年の知多鉄道の開通、昭和８年の県道名古屋半田線の改良など交通網の整備とともに、県内有数の機業地となりました。一方で、みどりあふれる自然環境と名古屋市近郊の利便性を併せ持つ立地条件により、昭和30年代後半より住宅開発が進み、知多郡でも最も高い人口増加率を示すなど、大都市近郊のベッドタウンという性格を有しています。

沿革をみると、明治11年の阿久比谷16カ村の統合により現在の町の原型である阿久比村が成立しました。その後、上阿久比村、阿久比村、東阿久比村に分割されますが、明治39年５月1日に再度合併し阿久比村となり、昭和28年１月１日に町制を施行して現在に至ります。

■阿久比町沿革史

<table>
<tr><th>藩</th><th>郡</th><th>明治初年</th><th>明治
11.12.28</th><th>明治
17年２月</th><th>明治
22.10. 1</th><th>明治
39. 5. 1</th><th>昭和
28. 1. 1</th></tr>
<tr><td rowspan="16">名古屋</td><td rowspan="16">知多郡</td><td>稗之宮村</td><td rowspan="16">阿久比村</td><td>阿久比村</td><td rowspan="7">阿久比村</td><td rowspan="16">阿久比村</td><td rowspan="16">阿久比町</td></tr>
<tr><td>椋原村</td><td rowspan="2">椋岡村</td></tr>
<tr><td>角岡村</td></tr>
<tr><td>高岡村</td><td rowspan="2">矢高村</td></tr>
<tr><td>矢口村</td></tr>
<tr><td>植村</td><td rowspan="2">植大村</td></tr>
<tr><td>大古根村</td></tr>
<tr><td>横松村</td><td>横松村</td><td rowspan="5">東阿久比村</td></tr>
<tr><td>萩村</td><td>萩村</td></tr>
<tr><td>宮津村</td><td>宮津村</td></tr>
<tr><td>板山村</td><td>板山村</td></tr>
<tr><td>福住村</td><td>福住村</td></tr>
<tr><td>白沢村</td><td>白沢村</td><td rowspan="4">上阿久比村</td></tr>
<tr><td>草木村</td><td>草木村</td></tr>
<tr><td>卯之山村</td><td rowspan="2">卯坂村</td></tr>
<tr><td>坂部村</td></tr>
</table>

資料：市町村沿革史

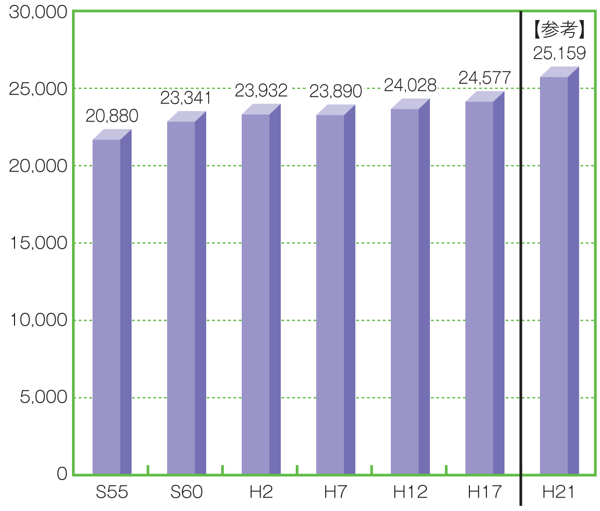
第２節　人口と世帯の動向

1 総人口

平成17年の国勢調査結果によると、本町の総人口は24,577人となっています。

近年の人口推移をみると、平成12年の24,028人から微増傾向で推移しており、平成12年から平成17年では549人の増加となっています。

■総人口の推移



※昭和55年～平成17年は国勢調査。平成21年は10月１日現在登録人口。

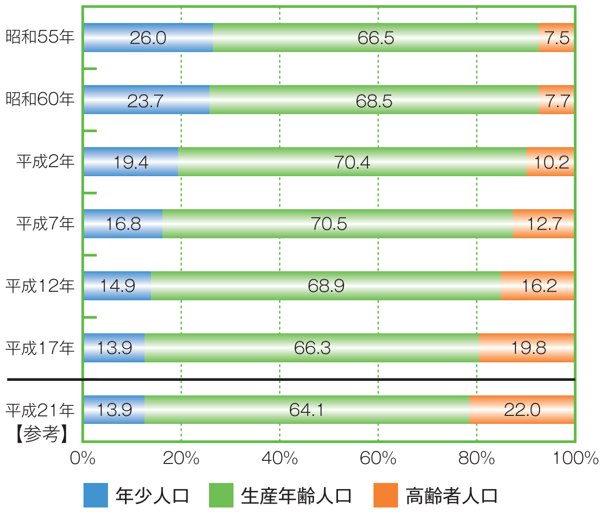
2 年齢階層別人口

年齢階層別人口でみると、平成17年の年少人口（14歳以下）は3,422人（13.9%）、生産年齢人口（15～64歳）は16,285人（66.3%）となっており、平成12年と比較すると人数、構成比ともに減少しています。一方、高齢者人口（65歳以上）は4,870人（19.8%）と、平成12年より人数、構成比率ともに増加しています。

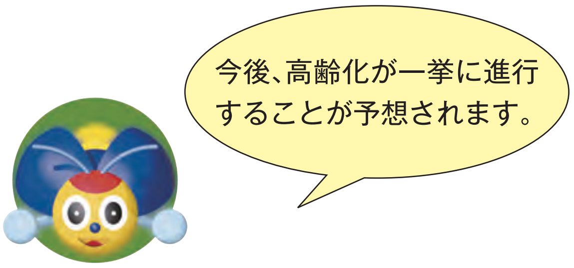
また、平成17年の全国及び愛知県との比較でみると、年少人口比率（13.9%）は県平均（14.7%）を下回るものの、全国平均（13.7%）を上回ります。また、高齢化率（19.8%）は県平均（17.2%）を上回るものの、全国平均（20.1%）をやや下回ります。

また、経年的な変化をみると、年少人口比は一貫して減少傾向にある一方、高齢者人口比は増加傾向にあり、平成12年に構成比が逆転しています。

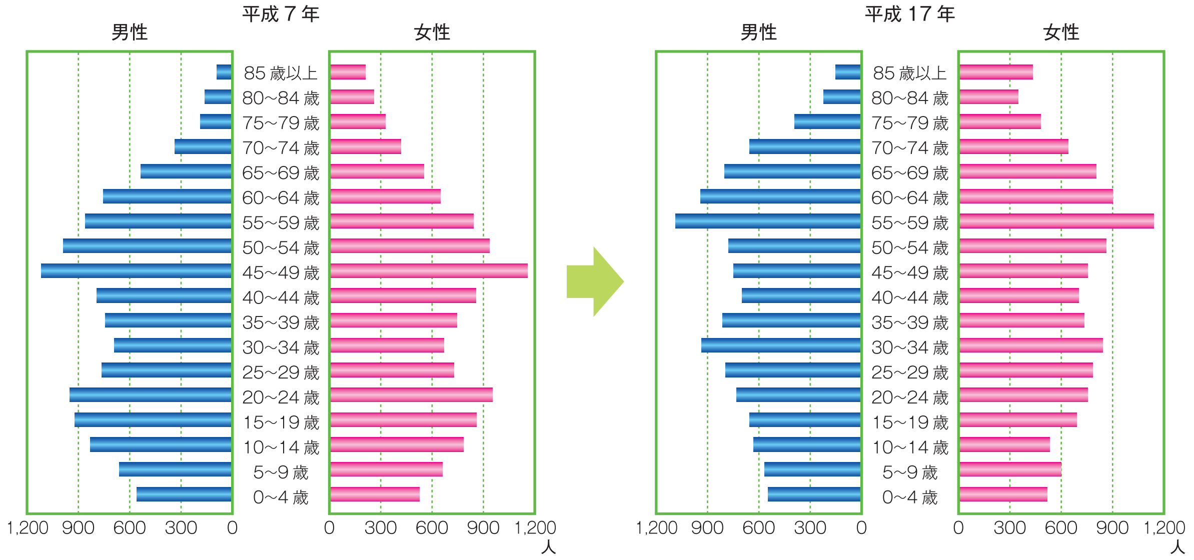
■年齢階層別人口構成比の推移



※昭和55年～平成17年は国勢調査。平成21年は10月１日現在登録人口。



■人口ピラミッドの変化（国勢調査）

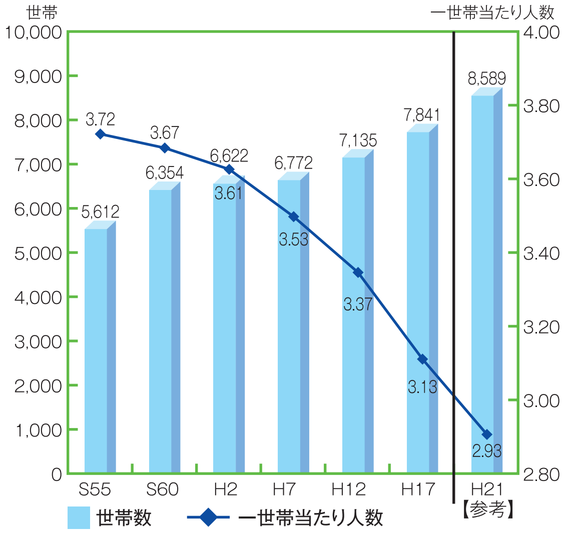


3 世帯数

世帯数は、平成17年では7,841世帯で、平成12年の7,135世帯から706世帯の増加となっています。また、一世帯当たり人数をみると、平成17年では3.13人と平成12年の3.37人から減少しており、核家族化や単身世帯の増加など、世帯構成の多様化が進んでいることがうかがえます。

また、一般世帯のうち高齢者のいる世帯の動向をみると、65歳以上の高齢者単身世帯、高齢者夫婦世帯が平成12年から平成17年では約1.5倍に増加しています。

■世帯数等の推移



※昭和55年～平成17年は国勢調査。平成21年は10月１日現在登録世帯数。

■高齢者世帯の推移（国勢調査）

	65歳以上の高齢者単身世帯	高齢者夫婦世帯	65歳以上の高齢者のいる世帯
平成12年	244	564	2,546
平成17年	370	851	3,124
伸び率	1.52	1.51	1.23

第３節　産業構造

1　産業別就業者数

就業者総数をみると、平成17年現在12,437人と総人口の50.6%を占めています。

その構成比をみると、第１次産業が4.6%、第２次産業が37.4%、第３次産業が57.1%となっており、推移をみると第１次産業、第２次産業は減少傾向、第３次産業は増加傾向にあります。

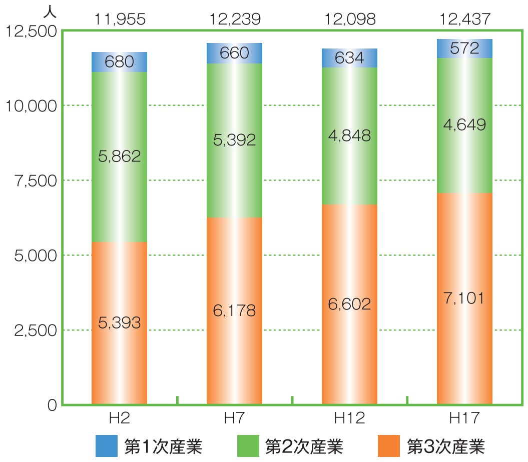
また、産業別就業者の割合を県全体と比較すると、第１次産業、第２次産業の比率が高く農工業への就業者が多いことが特徴として挙げられます。

■産業別就業者の比較（平成 17 年国勢調査）

	本　町	県全体
第１次産業	4.6%	2.8%
第２次産業	37.4%	34.4%
第３次産業	57.1%	61.3%

※分類不能を含むため割合の合計が100%にならない。

■産業別就業者数の推移（国勢調査）



※就業者総数には分類不能を含む。

2　産業別の特性

①農業

本町の農業は、阿久比川流域の肥沃な水田を利用した米や農業用施設を利用した花き、野菜などの生産が行われています。

また、畜産では、乳用牛や鶏の飼育が中心となり、耕種と畜産の農業産出額は、同額規模となっています。

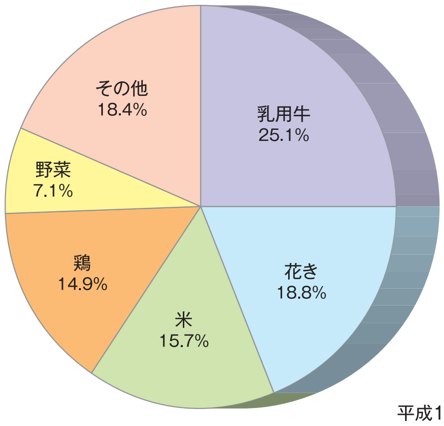
しかし、農業用資機材の高騰や消費量の減少など、農業を取り巻く環境は厳しく、農家数は減少傾向にあります。

■農家数の推移（農林業センサス）

	平成７年	平成12年	平成17年
農家数	921	745	572
専業農家	105	75	80
兼業農家	816	431	265
農家人口（人）	4,287	3,411	2,537

※平成12年以降の専業農家、兼業農家は販売戸数の値のため総数と一致しない。

■農業産出額の構成比（農林水産統計年報）



平成18年

②工業

本町の工業は、かつて綿布業を基幹産業として発展してきましたが、海外との価格競争等により衰退しました。

平成２年には阿久比西部整備地区において先端産業が操業を開始するなど高付加価値産業への転換が進んでいます。

近年では、事業所数はほぼ横ばいですが、従業者数、出荷額は増加傾向にあります。

■工業の状況（工業統計調査）

	事業所数	従業者数（人）	出荷額（万円）
平成16年	33	1,625	3,792,283
平成17年	35	1,688	3,878,787
平成18年	32	1,726	4,408,931
平成19年	32	2,095	6,883,550
平成20年	31	2,161	7,048,327

③商業

本町の商業は、これまで名古屋市や半田市等への購買力の流出が続いていたものの、平成11年の大規模小売店舗の出店と幹線道路沿いへの商店立地がみられ、町内の商業環境は大きく変化しています。

直近の動向では、商店数、販売額が減少しています。

■商業の状況（商業統計調査）

	商店数	従業者数（人）	販売額（百万円）
平成11年	245	2,170	28,991
平成14年	237	2,132	45,308
平成16年	236	1,969	42,016
平成19年	225	2,062	39,230

第３章　これからのまちづくりに向けて

第１節　これからのまちづくりに生かすべき特性

今後のまちづくりを進める上で、地域で育まれてきた資源やこれまでのまちづくりの成果など地域特性を最大限に生かし、本町らしいまちづくりを進めることが重要です。こうした本町の代表的な特性を整理すると次のとおりとなります。

まちづくりに生かすべき特性！

- 特性1　知多半島中心部に位置し、地理的・交通立地条件のよいまち
- 特性2　広がる空と阿久比川とみどりに包まれた住環境を有するまち
- 特性3　子どもを育てやすい環境づくりに取り組むまち
- 特性4　貴重な歴史・文化が伝承され、スポーツ施設を有するまち
- 特性5　地域への愛着と連帯感があるまち

特性1　知多半島中心部に位置し、地理的・交通立地条件のよいまち

本町は、知多半島中心部に位置し、名古屋市中心部まで鉄道、道路を利用して約30分、中部国際空港までも同様に約30分でアクセスできる立地条件を有しています。

また、町内に知多半島を南北に貫く知多半島道路の阿久比インターチェンジがあり、南北方向の主要地方道名古屋半田線、三河地区につながる衣浦大橋と知多半島の西知多産業道路を結ぶ東西方向の主要地方道西尾知多線など、近隣市町とのアクセスにも恵まれています。

さらに、名鉄河和線が町中央部を縦断し、４つの駅があり、利用者の多くを占める阿久比駅には特急が停車するなど、恵まれた交通条件を有しています。

こうした恵まれた立地条件を生かした町の活性化に取り組むことが必要です。

特性2　広がる空と阿久比川とみどりに包まれた住環境を有するまち

本町は、阿久比川を軸にその両側に農地が広がり、町の風景を特色づけるみどりの核が形成され、それを取り囲む丘陵に住宅地が立地し、さらに背面に連なる樹木や農地のみどりが住宅地を包んでいます。

また、板山高根湿地やホタルの舞う自然が残り、広がる空のもと、住宅地と田園風景が調和したみどり豊かな住環境を有するまちです。

こうしたみどり豊かな自然環境や景観は、住民の暮らしや交流に様々な恵みをもたらす貴重な財産であることから、環境保全に十分留意しながら、まちづくりに生かしていくことが必要です。

特性3 子どもを育てやすい環境づくりに取り組むまち

本町は、これまで子育て支援に力を入れて取り組んでおり、子ども総合支援センターをはじめ、各小学校区での学童保育、児童の通院医療費無料化などの子育て支援とともに、幼保小中一貫教育を推進するなど、子どもを育てやすいまちづくりに取り組んできています。

今後もこうした取り組みを進め、次代を担う人材を育成するためにも、子どもを育てやすいまちづくりに取り組むことが必要です。

特性4 貴重な歴史･文化が伝承され、スポーツ施設を有するまち

本町は、西暦694年の史料に「阿具比」として、その名が登場するなど1,300年以上の歴史を有するとともに、虫供養など伝統行事が地域で大切に伝承されています。

また、本格的な野球場、陸上競技場からなるスポーツ村など恵まれたスポーツ施設を有しています。

これらの歴史や文化は、未来へ継承する遺産であるとともに、スポーツ施設は交流資源としても活用していくことが必要です。

特性5 地域への愛着と連帯感があるまち

本町には、人のあたたかさや人情、郷土愛があります。このことは、住民意識調査においても「まちへの愛着」を感じている人が７割を超え、地域への愛着度が高いことがうかがえます。こうした住民性を背景に、支えあいの精神に基づく様々な分野で住民の自主的な活動が活発に展開されています。

今後のまちづくりにあたっては、こうした特性を十分に生かしながら、自立した地域づくりを進めていくことが必要です。

第２節　新しいまちづくりに向けた課題

本町の現状や特性、住民ニーズから把握された町の課題、さらには本町を取り巻く社会･経済動向を踏まえ、これからの新しいまちづくりを進めていくための主な課題を整理すると次のとおりとなります。

新しいまちづくりに向けた課題は！

- **課題1**　調和のとれた土地利用の推進と中心市街地の整備
- **課題2**　少子高齢化への対応と健康･福祉を重視したまちづくり
- **課題3**　自然環境と調和した活力ある産業基盤、快適な生活環境の整備
- **課題4**　将来を担う人づくりと地域文化の一層の向上
- **課題5**　自立した行政経営と協働による魅力ある地域づくり

課題1　調和のとれた土地利用の推進と中心市街地の整備

本町の市街地は既存集落の拡大と、昭和30年代以降の住宅開発によって形成されたもので構成されており、その形成過程の特質から、まちの中心性と市街地の連続性が欠如した状態が長く続いてきました。近年では、阿久比駅前や坂部駅西で土地区画整理事業が実施されるなど、役場周辺を中心として、徐々に「町の顔」づくりが進められてきました。しかし、その規模は十分とはいえず、今後も景観形成も含めた総合的な視点から、求心力のある中心市街地の整備とともに、環境保全や防災面でも調和した土地利用を継続して進める必要があります。

課題2　少子高齢化への対応と健康･福祉を重視したまちづくり

本町の高齢化率は19.8%（平成17年国勢調査）となっていますが、年齢構成をみると団塊の世代といわれる層が最も多いことから、今後、高齢化が一挙に進行することが予想されます。このため、これまで以上に高齢者人口の増加に伴う新たな行政需要への対応など、健康づくりや高齢者が住みやすい社会基盤の整備などの施策の展開が求められています。

また、子育て家庭への支援、仕事と子育ての両立支援、地域での子育て支援など、安心して子どもを生み育てることができる社会づくりに向けた施策の推進が求められています。

さらに、地域における高齢者、障がい者の介護･自立支援や子育て支援に関し、団塊の世代などの力を活用するなど、相互支援に基づく地域福祉体制づくりを推進していく必要があります。

課題3 自然環境と調和した活力ある産業基盤、快適な生活環境の整備

本町は、ホタル飛びかう住みよい環境づくりを目指して、心豊かなふるさとづくりに取り組み豊かな自然環境が残っています。こうした自然環境は、住民の多くが町の魅力として認識しています。一方で、より快適に暮らせる利便性や自然災害に対する安全性、農地の保全、企業誘致も本町にとって欠かせない要素であり、自然環境と開発のバランスの取れたまちづくりを進める必要があります。

さらに、安全で利便性の高い道路網の整備、犯罪や事故のないまちづくりなど、快適な生活環境づくりを進めていく必要があります。

課題4 将来を担う人づくりと地域文化の一層の向上

次代を担う子どもたちの健全育成は、本町においても重要な課題のひとつです。そのため、幼保小中一貫教育の取り組みを一層進め、基礎的学力の向上とともに、児童生徒の個性や能力、自立心や思いやりの心などを伸ばし育てる教育を行うため、学校・家庭・地域が連携して教育環境の充実を図ることが求められています。

また、学習活動・スポーツ活動・文化活動に対する関心も高まっています。住民が生涯を通じて、いきいきと学ぶことのできる環境づくりなど、生涯学習環境の充実を図る必要があります。

さらに、文化財や地域に伝わる伝統行事などの文化を将来に継承していくため、文化財の保護に関する啓発活動や、人づくりへの取り組みを進めていく必要があります。

課題5 自立した行政経営と協働による魅力ある地域づくり

本格的な地方分権の時代を迎えており、さらに地域主権の確立が叫ばれる中、本町においても、自らの責任と判断で自らの進むべき方向を決め、基礎自治体として具体的な施策を自ら実行することができる能力が必要です。このため、行財政改革を積極的に進め、真に自立して持続可能なまちづくりを推進していくことが求められます。また、多様化・高度化するとともに広域化する行政課題に対応するため、近隣市町との連携を一層図る必要があります。

また、自分たちの地域は自分たちでつくるという気運が高まり、地域課題の解決に向けた住民活動や住民主導の地域づくり、住民と行政との協働による地域づくりが全国的に活発化しています。こうした住民活動や住民参画・協働の地域づくりは、これからの自立したまちづくりの原動力として必要不可欠なものであることから、本町においても、より一層の住民参画の促進や、住民と行政との協働体制の確立が求められます。

第３節　住民のまちづくりへの思い

まちづくりへの住民の思いを把握するため、住民意識調査、まちづくり懇談会、町民まちづくり会議を実施しました。

1　住民意識調査

平成21年６月に、町内に居住する20歳以上の男女2,000人（無作為抽出）を対象に郵送法でアンケート調査を実施しました。その結果、有効回収数は1,169、有効回収率は58.5%となっています。

2　まちづくり懇談会

町の課題や問題点、まちづくり全体、あるいは分野別・地域別の具体的な施策に関するご要望・ご提案などをいただく、まちづくり懇談会を平成21年７月に、町内10会場で実施しました。

3　町民まちづくり会議

公募及び各分野で活動している町内の各種団体・組織に参加を要請し、町の課題や問題点、まちづくり全体、あるいは分野別の具体的な施策や協働のまちづくりに向けたご要望・ご提案などをいただく町民まちづくり会議を平成21年８月、平成22年５月に実施しました。

このうち住民意識調査での主要な設問に対する回答結果をみると次のとおりとなっています。

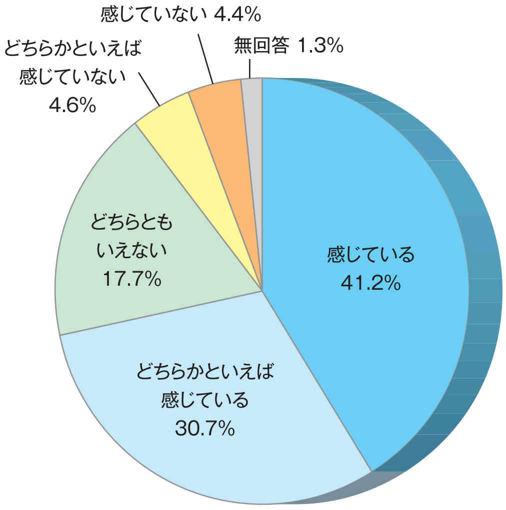
アンケートの主な結果！

「快適住環境のまち」が
第１位！

- ■　「まちへの愛着度」、「今後の定住意向」ともに高い。
- ■　満足度が高い項目は「上水道の整備」、「ごみ処理対策・リサイクル」、「消防・防災対策の充実」。一方、満足度が低い項目は「雇用対策と勤労者福祉の充実」、「情報通信網の整備」及び「商業の振興」。
- ■　今後の町の特色は「快適住環境のまち」が第１位。次いで「健康・福祉のまち」、「環境保全のまち」の順。

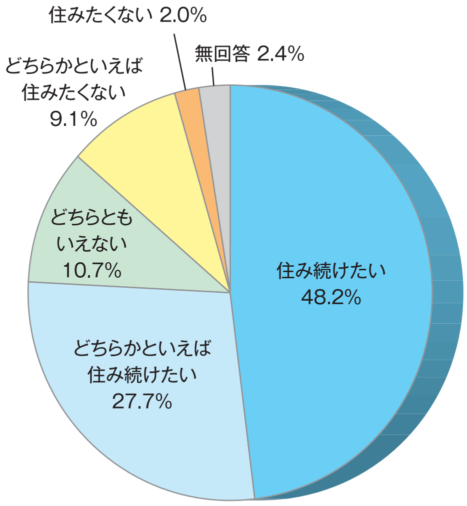
①まちへの愛着度

愛着を「感じている」と回答した人が41.2%と最も多く、次いで、「どちらかといえば感じている」(30.7%)が続き、これらを合わせた“愛着を感じている”という人が71.9%となっています。これに対して、“愛着を感じていない”(「どちらかといえば感じていない」4.6%及び「感じていない」4.4%の合計)は9.0%となっており、まちへの愛着度は高く、多くの方が本町に愛着を感じているという結果が出ています。



②今後の定住意向

今後も町に住み続けたいかをたずねたところ、「住み続けたい」と答えた人が48.2%で最も多く、これに「どちらかといえば住み続けたい」(27.7%)を合わせた75.9%の人が“住み続けたい”という意向を示しており、多くの方が今後も本町に住み続けたいと感じているという結果が出ています。

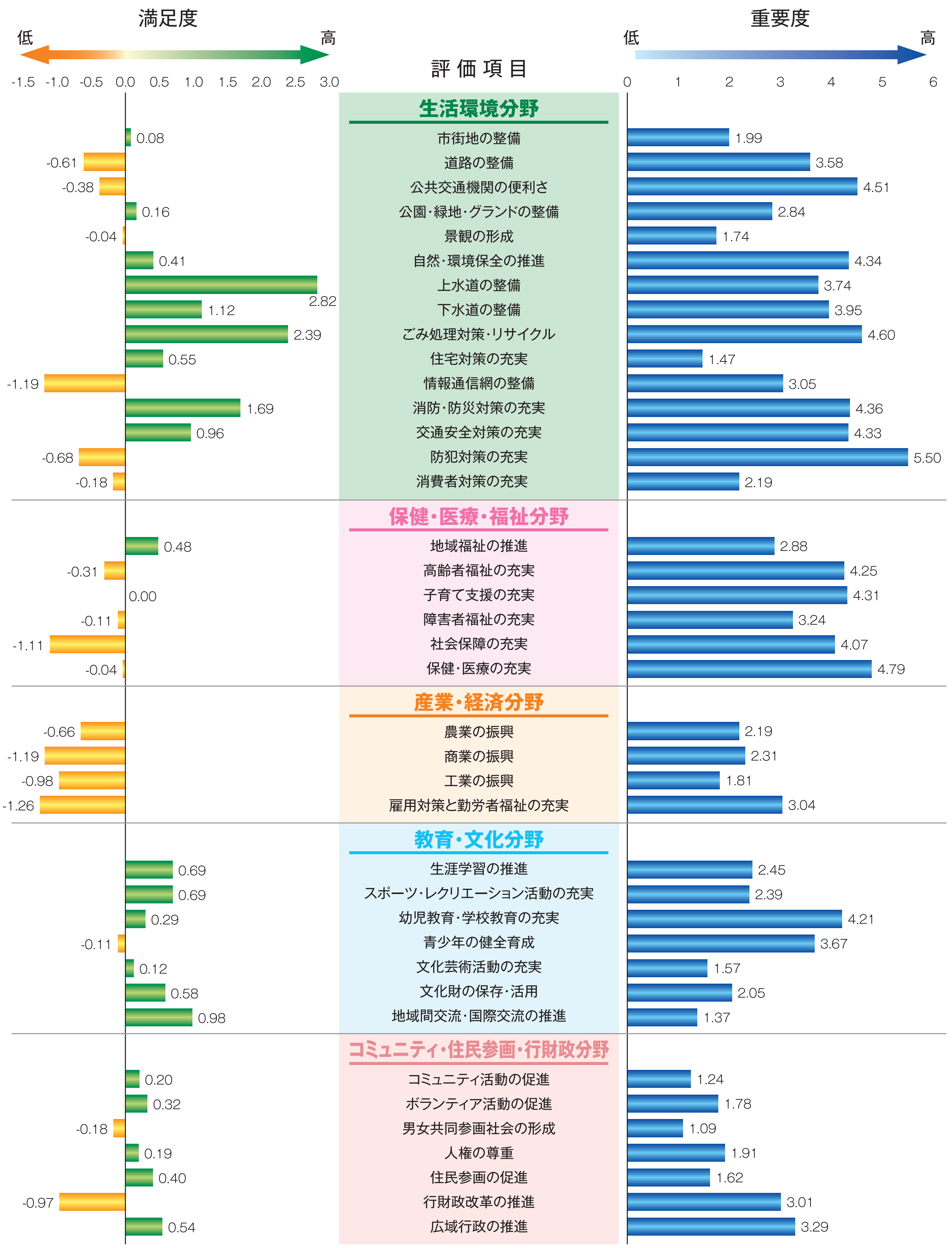


③項目別の満足度と重要度について

満足度が最も高い項目は「上水道の整備」(2.82点)となっており、次いで「ごみ処理対策・リサイクル」(2.39点)、第３位が「消防・防災対策の充実」(1.69点)と続き、以下、「下水道の整備」(1.12点)、「地域間交流・国際交流の推進」(0.98点)などの順となっています。一方、評価点の低い方からみると、「雇用対策と勤労者福祉の充実」(-1.26点)が最も低く、次いで「情報通信網の整備」及び「商業の振興」(同点-1.19点)と続き、以下、「社会保障の充実」(-1.11点)、「工業の振興」(-0.98点)の順となっています。

また、重要度をみると「防犯対策の充実」(5.50点)が第１位に挙げられ、次いで「保健・医療の充実」(4.79点)、「ごみ処理対策・リサイクル」(4.60点)が続き、以下、「公共交通機関の便利さ」(4.51点)、「消防・防災対策の充実」(4.36点)の順となっています。

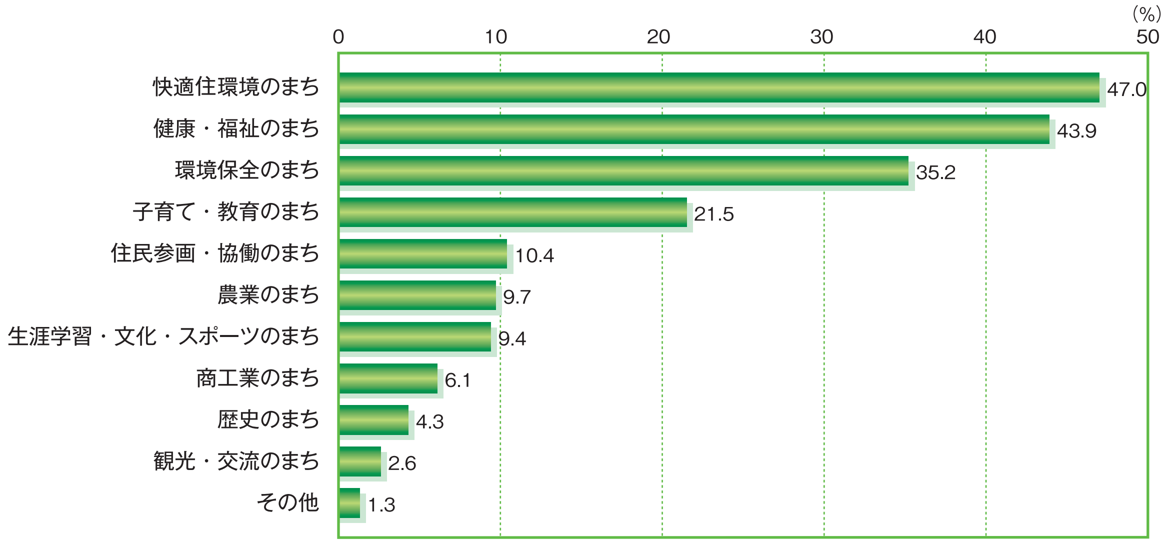
■項目別の満足度・重要度

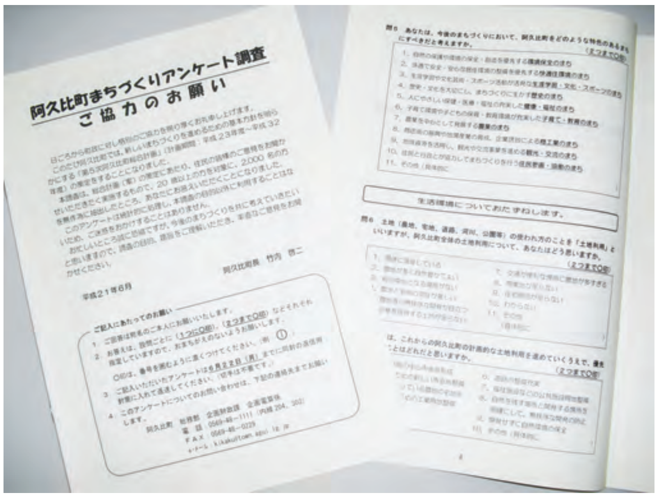

満足度
低
高
-1.5 -1.0 -0.5 0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5 3.0
評価項目
重要度
低
高
0 1 2 3 4 5 6
生活環境分野
市街地の整備 0.08 1.99
道路の整備 -0.61 3.58
公共交通機関の便利さ -0.38 4.51
公園･緑地･グランドの整備 0.16 2.84
景観の形成 -0.04 1.74
自然･環境保全の推進 0.41 4.34
上水道の整備 2.82 3.74
下水道の整備 1.12 3.95
ごみ処理対策･リサイクル 2.39 4.60
住宅対策の充実 0.55 1.47
情報通信網の整備 -1.19 3.05
消防･防災対策の充実 1.69 4.36
交通安全対策の充実 0.96 4.33
防犯対策の充実 -0.68 5.50
消費者対策の充実 -0.18 2.19
保健･医療･福祉分野
地域福祉の推進 0.48 2.88
高齢者福祉の充実 -0.31 4.25
子育て支援の充実 0.00 4.31
障害者福祉の充実 -0.11 3.24
社会保障の充実 -1.11 4.07
保健･医療の充実 -0.04 4.79
産業･経済分野
農業の振興 -0.66 2.19
商業の振興 -1.19 2.31
工業の振興 -0.98 1.81
雇用対策と勤労者福祉の充実 -1.26 3.04
教育･文化分野
生涯学習の推進 0.69 2.45
スポーツ･レクリエーション活動の充実 0.69 2.39
幼児教育･学校教育の充実 0.29 4.21
青少年の健全育成 -0.11 3.67
文化芸術活動の充実 0.12 1.57
文化財の保存･活用 0.58 2.05
地域間交流･国際交流の推進 0.98 1.37
コミュニティ･住民参画･行財政分野
コミュニティ活動の促進 0.20 1.24
ボランティア活動の促進 0.32 1.78
男女共同参画社会の形成 -0.18 1.09
人権の尊重 0.19 1.91
住民参画の促進 0.40 1.62
行財政改革の推進 -0.97 3.01
広域行政の推進 0.54 3.29

④今後のまちづくりの特色について

今後のまちづくりの特色についてたずねたところ、「快適住環境のまち」が47.0%で第１位に挙げられ、次いで、「健康・福祉のまち」（43.9%）、「環境保全のまち」（35.2%）が続き、以下、「子育て・教育のまち」（21.5%）、「住民参画・協働のまち」（10.4%）などの順となっており、住環境の充実を中心に、健康・保健・福祉分野、環境への関心が高いことがうかがえます。

■今後のまちづくりの特色について





住民意識調査

町民まちづくり会議